教職員情報

2007年1月

連載第9回

京大植物園観察会

京大植物園を考える会のニュースレター「ゆくのき通信(写真)」ができました。詳しくは考える会にお尋ねください。

「ゆくのき通信」増刊号

第44回　京大植物園観察会レポート
2006年11月23日(木)10:30～12:00　曇り
テーマ『植物採集と植物園』～生きている“標本”の意義を考える～
ガイド:村田　源(植物分類学:元京大理学部植物学教室講師)

今回は植物園祭り観察会スペシャル、テーマは「生きている『標本』の存在意義を考える」です。ちょうど紅葉も見頃で、久々の休日開催で多くの参加者が ゆっくりと村田源先生の案内に聞き入りました。

▲いつも楽しいチャンチンモドキの説明

▲植物の不思議を…

各コーナーを巡りながら、それぞれの植物の由来や、この植物園で行われた貴重な研究についての説明を受けました。メタセコイア(アケボノスギ)は、沼田大學先生がアメリカから苗を持ち帰って植えられたものです。アメリカに分布するセコイアは常緑樹ですが、中国原産であるメタセコイアは落葉樹です。このことを明らかにしたのが植物学教室の三木茂先生でした。林床にはシャガの群落があります。シャガでは重力によってホルモンが下に移動することで気孔が葉の裏にのみ形成されます。このことも京大植物学教室の研究によって明らかになりました。

京大植物園では自然に近い環境のなかでたくさんの植物を見ることができます。これは、単なる見本園ではなく「生態植物園」にするという郡場寛先生のコンセプトに基づいて設計され、管理されてきたからです。植物園の役割は生物の横のつながりや縦の過程(芽生えから種子散布まで)を見せることであるという村田先生の説明に、この植物園の価値を改めて確認することができました。

▲植物園の歴史について

▲常緑樹とは、落葉樹とは

京大植物園を考える会　http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/

｜ひとつまえにもどる｜

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..